第四六回事業所訪問

こんにちは健保組合です！

清宏運輸株式会社（流山市）の巻

いま「記録」がいろいろと話題になっています。

うだるような暑さが続いた今年の夏、記録的な猛暑には皆さんうんざりしたことでしょう。日本各地に甚大なつめあとを残した台風、その上陸数が新記録です（被害に遭われた方々には心よりお見舞い申し上げます）。

一方、二〇二の国と地域が参加して、一七日間にわたって熱戦が繰り広げられたアテネオリンピックでは、日本選手の躍進が目立ち、メダルを量産。メダル数は計三七個で、日本のオリンピック史上最多数となりました。

そしてアメリカのメジャーリーグでは、マリナーズのイチロー選手が、米大リーグの最多安打記録を八四年ぶりに塗り替えて今シーズンを終えました。

皆さんはどんな「記録」に挑戦しますか？

＊　＊　＊

事業所訪問の第四六回目としてお邪魔したのは、千葉県の北西部に位置し、水と緑の豊かな自然が息づく住宅文化都市をめざす、流山市にある清宏運輸株式会社でした。

少し話題は横道にそれますが、流山市は、情報化進展度ランキングで今年は全国二四位にランクされています。これは、全国自治体の電子化進展レベルの調査を日経BP社が行ったもので、「ウェブサイトの情報・サービス」「アクセスのしやすさ」「庁内の情報化」「情報化政策」「セキュリティ対策」の五分野を一〇〇点満点で評価したものだそうです。

全国二四位は、昨年の六八五位から一気に六六一自治体抜きの快挙です。千葉県内では市川市に次いで二位でした。ちなみにトップは、九四・五点の神奈川県藤沢市で、流山市は八五点だったそうです。

住みよい街づくりにいまやITの推進は欠かせないものになっています。流山市は将来の都市基盤の整備に向けて、着々と前進しているようでした。健康保険組合としても学ぶべき点が多々あると感じたところです。

野球チームの大躍進の秘訣（けつ）は職場環境にあり!?

今回、清宏運輸にお伺いすることになったきっかけは、同社の野球チームが健保組合の主催する本年度の野球大会でみごと優勝を飾ったことからです。

冒頭、記録のことにふれましたが、野球大会の歴史のなかで第五回大会に準優勝を果たして以来、清宏運輸の名前は記録から消えていました。毎回、強力なメンバーを有しながらなぜか本領を発揮できないまま、大会が終わっていました。

流山市の一角にある清宏運輸㈱

しかし、今年は雪辱を果たし、みごと栄冠を手にして記録に名を残したのです。そんな彼らに「何か変化があったのかな」と、私たちは職場を訪ねることにしました。

取材日の十月一日、私たちは目的地に到着し「こんにちは健保組合です！」とごあいさつすると応接室に案内され、しばらくすると今日の取材にお付き合いくださる宇山嘉一専務が「いらっしゃいませ」と同席されました。

四〇周年の節目に向け、アイデアと努力で生き残りをかける

清宏運輸株式会社は、「ウヤマ産業株式会社」を中核とした「ウヤマグループ」を構成する企業であり、昭和四十一年十月の創業で、平成十八年十月に四〇周年を迎えます。宇山正徳社長が礎を築き、現在は宇山専務の陣頭指揮で企業運営をされています。

ウヤマグループは、倉庫業・運送業・流通加工業・印刷加工業等多岐にわたって手がけられ、主に運送部門を清宏運輸が担っておられるとのことでした。主たる配送物は建材や内装用のクロス等で、点在する自社倉庫を拠点に業務展開されており、最近では、いわゆる共同配送に重点を置き、合理的で顧客のニーズに沿った営業努力を重ねられているそうです。

宇山嘉一専務

宇山専務から、「現在、物流センターを建築中」とのお話を聞きました。そこをメインとした業務を顧客にプレゼン中だそうです。併せて工場の建設も検討されており、将来のビジョンを淡々とした口調のなかにも熱く語ってくださいました。

それでも運送業界を取り巻く環境はまだまだ厳しく、さまざまな規制や必要経費の高騰等により利潤を生み出すことが難しい状況にあります。この厳しい環境下で生き残るためには、経営者と従業員のアイデアと努力が大きな力になるのではないでしょうか。

同社には、現状に満足せず将来を見据えた、飽くなき展望が満ちあふれていることを実感しました。

清宏運輸では、①輸送はサービスである②社員は全員第一線の外交員である③対応は心をこめて親切・ていねいに④製品は預かり物、大切に扱う⑤仕事をとおして自己を研（みが）き社会に貢献する、の五項目を目標に掲げ、班長会議等を機能させて全社員への浸透を図っています。

運送業として果たすべき「社会的責任」に取り組む

「わかり合えるまで会話を」と、宇山専務は社員教育のポリシーを話されました。社員の方々と年齢が近いからこそ本音の話し合いができて、溝が埋まりやすいのかもしれません。風通しのよい企業によどんだ空気は存在しないのです。

こんな社風に、野球チーム躍進の秘密があったのでしょうか？

同社の会社案内には、「社会的責任を果たす」と明記されています。公道を職場として日常の業務を遂行する運送業では、事故防止や環境対策等諸問題が山積みしており、それらを企業運営の一環として取り組む姿勢がはっきりと表れていると感じられました。総合物流のあり方を模索しながら、決して立ち止まらない同社の将来は、きっと明るいものであるに違いありません。

取材の最後に、宇山専務の健康づくりをお聞きすると「たばこはやめました。あとはウオーキングをたまに…」とのことでした。ストレスの多い現代社会、ご自身の健康はだれも守ってくれません。企業の健康とともにしっかりとしたメンテナンスをお願いします。

氏は対談のなかで、健康保険組合の事業に対して、非常に理解を示してくださり「今後とも健全運営を」と応援してくださいました。その期待に添うべく私たちはさらなる努力を誓いました。

こうして短い時間ではありましたが、今日の取材を終えました。

清宏運輸はじめグループ関係者の皆さん、本当にご協力ありがとうございました。

＊　＊　＊

十一月一日は千葉県トラック健康保険組合の設立記念日です。産声を上げてから一八年が経ちました。組合の育ての親は、加入する事業主や被保険者、その家族の皆さんです。設立のころ、生を受けた方々は、高校を卒業するころでしょうか。

その方たちに負けないよう、健全運営に役職員一同がんばりますので、これからもよろしくお願いいたします。